

「消費税 課否判定」コース

CONTENTS

入門編

第1章 消費税の概要

テーマ1	消費税とは	2
	■消費税は一言でいえば買い物税	
テーマ2	内国消費税とは	4
	■内国消費税とは日本で課税される消費税	
テーマ3	納税の仕組み（国内取引）	6
	■消費税を負担するのは消費者	

第2章 課税の対象

テーマ1	課税の対象（国内取引）	14
	■消費税の対象取引は買物行為	
テーマ2	課税取引（国内取引）	20
	■ほとんどの取引は課税される	
テーマ3	非課税取引（国内取引）	24
	■非課税取引は限定列举	
テーマ4	課税標準額（国内取引）	32
	■課税標準を構成するのは課税取引	

第3章 控除対象仕入税額（原則）

テーマ1	控除対象仕入税額①	38
	■支払った消費税は申告書で控除	
テーマ2	控除対象仕入税額②	40
	■会計とは違う消費税の売上げと仕入れ	

課否判定編

テーマ1	売上高	59
テーマ2	売上原価	62
テーマ3	販売費及び一般管理費	63
テーマ4	営業外収益	75
テーマ5	特別損失	75
テーマ6	貸借対照表項目	77

1

消費税とは

Theme

消費税は一言でいえば買い物税！

・ POINT

消費とは

「買い物」の先には必ず「消費行為」が存在する。

「消費」とは、何かを費やし、何かを消す、と書くが、お金を使って何かをする、と考えればよい。

・ MEMO

導入の経緯

消費税は平成元年に導入され、当初は3%の割合で課税されていたが、その後、平成9年の改正による税率アップを経て5%となり、平成26年4月1日からは8%の割合で課税されている。

「金あるところに税金あり」という諺があるように、国や地方自治体は様々な理由をつけて課税しようとするものである。

消費税は非常に大きな財源として国などにとっても魅力ある商品のひとつなのである。

なお、平成31年10月からは税率10%となる予定である。

■ 消費税とは何か

まず、はじめに消費税でいうところの消費とは、皆さんが毎日行う「買い物」と考えてみてください。

百貨店で食料や衣料品を買う。書店で本を買う。すべて普段の「買い物」です。

そして、このような「買い物」の先には「消費」という行為が存在します。ご飯を食べる。服を着る。本を読む。すべて広い意味での「消費行為」と呼ぶことができます。

消費税では、これらの「買い物」を「消費」の前提取引と考えて、「買い物」の時点で一律に8%の税を徴収することになっているのです。

■ 消費税はなぜ課税される

次に、消費税が課税される理由について考えてみましょう。

この理由は単純なもので「買い物」できる人はお金を持っているのだから、購入代金の8%ぐらいいは消費税を負担し、財政に協力してください、というものです。

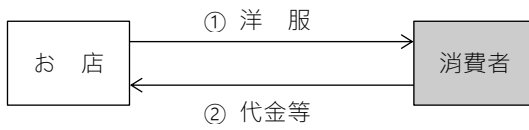
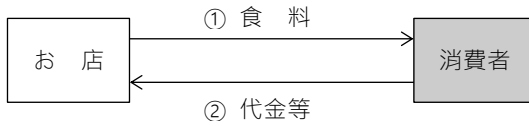
裏を返せば、消費税を負担するのは皆さん消費者一人一人ということにもなるのです。

その結果として、平成元年に消費税が導入されてからは、皆さんは財布からお金を出すたびに消費税を負担していることになるわけです。

消費の具体的行為

(1) 商品等の消費・使用

皆さんが食料や衣料品などを購入する行為がこれにあたります。



(2) サービスの消費・使用

皆さんが電車に乗ったり，理容室で髪を切ってもらう行為がこれにあたります。

